

○12番（三宅 耕三君） 12番、三宅。

おはようございます。

平成30年も早いもので師走を迎えました。今定例議会に臨むに当たって、私は町長に質問をする通告をいたしました。これは議会と行政側の協調性を持つての約束事であり、私は町長に対して、他の議員はそれぞれの考えで、それぞれの担当に質問をするはずで、そして職員がどんな質問をするのか、詳細に聞き取りというのが行われます。質問時間が往復1時間ということですので、聞き取りは常識の範囲内ということになっております。

私はもう町長の考えについてということでありましたので、職員が答弁書を書けるような問題ではないということで、ほんの数分で終わってしまいましたが、今回この一般質問を前に、私が長年講読をして一番信頼を寄せている新聞紙上に、「水谷さん三選出馬へ」という新聞がありました。この新聞を見て、私は驚きました。きちんと私たちは議会のルールに基づいて通告をしているのに、早々と町長は新聞記者にその意向を伝えて、新聞に載せてしまった。これ広くみんなが知るところになりました。この翌日に質問をする私は一体何なんだろうということで、釈明を求められましたけども、私は応じませんでした。

そういったことで、私、堂々と議会のこの場で釈明をしていただきたいと思います。これは大きな問題です。これから議員みんなが通告書なしで、一般質問ぶっつけ本番にして何を聞かかわからない状態に、もしなつたとしたら、非常に我々にとっては緊張感のある議会だというふうに思いますが、職員の皆さんや町長は非常に困ると思います。したがって、そういう取り決めで申し合わせ事項として、私たちは尊重してまいりました。このことについて、町長、しっかりと答弁をいただきたいと思います。

○議長（島田 正彦君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） おはようございます。

よろしくお願いを申し上げます。

今、三宅議員から通告をいただいた質問に対しまして答弁をさせていただく前に、その経緯なりを説明させていただきますと、記者の皆さんからどうするんだという話がありました。今日、12月6日に、一般質問の一番最初に、質問に応じてお答えをするという話をさせていただきました。あくまでも一番最初に質問に答える、それをもって表明させていただくという話をさせていただきました。

どなたですかというふうに聞かれましたので、三宅議員ですというお答えをさせていただきましたし、内容については、その時の答弁を聞いてほしいというお話をさせていただきましたというふうに思っています。

私の考えは、ちょっと浅はかだったかもわかりませんが、この議場に來ていただいて聞いていただければな、というつもりで申し上げたということでございます。軽率だったかなと、今思えばそう思っておりますので、それについてはお許しをいただきたいというふうに思います。

それでは通告がありました質問について、お答えをさせていただきたい、答弁書を作りました

たので、お答えをさせていただきます、ということでございます。ということは、もうこれでもよろしいということですね。

○議長（島田 正彦君） 三宅議員。

○12番（三宅 耕三君） 新聞記者の皆さんはお仕事ですので、いかに聞き出すかというのが、その人の仕事の本質です。その言葉にまんまと乗せられたというのは、やっぱり言われたように軽率だったなと思います。だから議会の申し合わせ事項を決して無視したとは思いませんけども、そういうことにもなりかねないということを肝に銘じていただきたいと思います。それぐらい町長の発言というのは、ものすごい重いんです。

ということで、これまでの8年間を振り返って、町長はどんな思いで町政運営をしてこられたのか、そして来年4月の統一選挙に3期目を目指されるのかということを実は聞きたかった。

その前に直接お話をした時に、本当は紙なしで、ペーパーレスで本音のトークをしたいですねという話をしました。ところが議会のルール上、通告しなければいけないということで、今回のようになってしまいました。だから私は今日、通告書だけです、皆さんのお手元にある。町長の頭の中には自分のお考えがあるはずですので、できればそれをお話をいただければと思います。

何を聞くかわからないのじゃなくて、あらかじめ通告はしてあります。その時に、まず私と水谷町長の関係というのは、平成3年に、水谷町長は県議会に初当選をされました。その翌年、平成4年に私は町議会に初当選をして、そして同じように勉強会を重ねてまいりました、一議員として。いろいろな勉強をさせていただきました。その中で水谷町長から、先輩でしたから、学んだことは、RDFの爆発事故の時でした。右往左往している県を見て、だれも責任をとっていないよなという言葉聞いたことがありました。政治家は責任をとるべきなんだということを、私はそこで一つ学ばせていただきました。

今回いろいろな事業を8年間やってこられました。町長のお考えで、夢を語るのは町長の仕事だと。いいと思います。それに対していろんな調査をしたり、事業に結びつけていくのは、やはり職員の仕事であり、少し違ったりしたら議会が軌道修正をかけてというのが、お互いの役割だと思っています。

町長には執行権がありますので、車の両輪で並列ではありませんね。常に町長は一步前、前輪を抱えている。私たちは議会でありながら後輪でしかない。町長の提案したことに対して、私たちは審議をして決定をしていく。ただ、私たちには議決責任というのがついて回ります。それは町長に劣らず、重い責任があります。

そこで今回の通告書の下、駅周辺、特に駅前開発について、町長は、これは失敗と言ってもいいと思いますが、断念をせざるを得ない状況になりました。地権者をはじめ各自治会におわび行脚をしたというのは、皆さんご承知のとおりですけども、謝って済むのなら警察は要らないというぐらい、謝って済む問題ではないと思いました。という矢先に、町長は自ら自分の報酬を、町長と副町長、10%ずつ削減するという条例案を提出されました。これで済んだと本

人は思っているかも知れませんが、町長と副町長の責任の重さは同じですか、ということ町長に伺いたいと思います。これが1つですね。

次はもうざっといきます。観光協会について。

私は復活するべきだと思います。それから農福連携事業というのは、ガラス温室にシグマファームという名前が書いてあります。公共物に民間事業者の名前を入れるということは、ネーミングライツじゃないですけども、その管理運営を全て行うというとらえ方ができます。しかし、ただ名前を入れているだけで、その管理運営を全てやっているわけではなくて、民間事業者の名前が公共物に書いてある、これはいかなものかと私は思いますが、町長のご見解を伺いたいと思います。

それからサイレン吹鳴ということですけども、町長のお考えで、サイレンは絶対鳴らさないということを発信したらしいということを知りました。住民の声、消防団の声、もちろん全員ではありませんよ。どうしてそういうことになったのか。議員も再三、サイレンの吹鳴は必要ではないのかということ質問をいたしました。でも担当課のレベルでの答えだったので、上には町長がいるということで、サイレンの吹鳴はしませんという答えでした。これを町民の声をどのようにとらえておみえになるのか、お答えをいただきたいと思います。

それから中学校移転ということで、駅周辺開発、駅前開発で盛んに議論もされました。確かに東員第一中学校は、もう50年を超えている校舎もあります。全部がそうではありませんけども、その点をどう克服して新築、または移転に繋げていくのか。

教育委員会の幹部の中には、行政みんなが一致団結すれば必ずできるというふうに豪語した職員もいるということを知りました。その温度差が、果たして町長部局と教育委員会とにあるのか。これどうなっているのか。もしもやっぱり失敗をしたら、また駅前開発と同じことになりますので、今どういう手順で進められて、耐用年数が50年、あるいは30年というところで新築をした場合、町からの持ち出し、そして補助金がどれだけ見込めるのかということをお考えになっているのか。これもお聞かせをいただきたいと思います。

それから部制廃止ということが、今これも条例に上がっております。町長の選挙は来年の4月、この部制廃止をして全部課にするということで、大きく形態を変えるという提案がありました。町長の政策で進めるのであれば、町長の選挙の後ではないのかと私は思いました。なぜ今実施をして、4月1日から始めるという強行に出たのか。町長はだれも競争相手がいないので、おれが町長になることがわかっているからという、そういう思いがあるのか。その辺のことをお聞かせいただきたいと思います。そしてそこに至るまでに職員のいろいろな考え、また意見をどれぐらい吸い上げたのか、そしてそこに踏み切るに至ったのか、その辺もお答えをいただきたいと思います。

最後に、などとありますけども、これは町長とも直接話を多分している中でのことですので、おわかりいただいているかなと思いますけども、北勢線の今後について、以前、町長と私が議会議員、お互いに議員の時に、北勢線を近鉄が廃止して、今後存続をどうしていくのかという時、ともに桑名の市民ホールでパネルディスカッションを開いたことがありました。

これはどういうことかと言うと、やはり鉄道にはお金がかかる。だから線路を撤去して、そこに自動で走るバスを走らせたらどうだということで、そしてそれは連結でやって、そこからまたバスですから、道路にも出ていけるという、これでトヨタを呼んだり、または京都のMKタクシーでしたね、社長も来てくれました。若いですけども非常に切れる社長で、こちらの質問に対しては、もうすぐに答えが出てくるというような切れ者でした。

その案をもって、またお年寄りや体の不自由な人に対してはタクシーでお迎えに行くという、無料でもできるし、100円でも経営は成り立つと。タクシーは100パーセント稼働しているわけではないということで、空いている時間を利用すれば安価でできるというようなことでした。それを持って県に行きました。

新聞にも載りましたが、これはもう本当に最初から決まっていたように、三岐鉄道に移管されました。これを今後、町長はどのようにお考えなのか。もちろん協調性が必要ですので、桑名市、いなべ市のこともあります。東員町の真ん中だけが知らんというわけにいきませんので、協調性を持ってやっていただいていると思いますので、その辺を踏まえて、お考えだけを伺えばいいかと思っておりますので、町長のご見解を伺いたいと思っております。

それから駅から東員町に向かうときに、今、街路樹を伐採してますね。もう撤去されましたか。スッキリしました。水谷町長が就任して以来8年間、あそこは手つかずで、草ボーボーで、非常に東員町のメインロードとは言い難いような状況でした。なぜあれを今まで放置をされていたのか。そこは東員町のまちづくりには欠かせない顔になると思いましたけども、なぜ今になったのか。あれをきれいに整備すれば、東員ゲートウェイとも言えるような、そういった道路にもなるわけでありますので、東員町長のお考えを伺いたいと思っております。

それから、これも町政懇談会なんかでお話をされていると思っておりますけども、水道料金を将来的に値上げをしたいという、そうしないと採算がもうとれないので何とかお願いしますということを、お話を聞いたことがあります。今、国会では水道法の改正ということで、民間の参入ということも検討されて、今日ぐらい、恐らく参議院を通過するのではないかなというぐらい超特急で進んでいますね。その辺、もしも頭の隅にそういうお考えがあるのかどうか、お伺いをしたいと思います。

以上について、よろしくお願いいいたします。

○議長（島田 正彦君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） 私が町長に就任させていただいてから8年になります。その前に東員町というのは、合併せずに、単独で町政運営をするということになりました。

私はこれについては正直よかったんかなと、個人的な見解ですけど、よかったんかなと、町民の一人として喜んでいて一人でもあります。ただ、今、世界情勢、日本情勢、国内情勢ですね、いろいろあります。その中で、小さなまちが単独運営をしていくという厳しさ、これはあると思います。その中でしっかりやっていかなければいけないなというふうに思っておりますが、一つ一つの答弁、全部きちっとできるかどうかは、もし漏れがあったら、またご指摘をいただきたいというふうに思っております。

東員駅周辺の開発についてですね、私はこの計画、断念せざるを得なくなりました。これについては非常に残念な結果になったというふうに思っております。ただ、この地域というのは、非常に大きなポテンシャル、可能性を秘めているというふうに思っておりますので、何か次の一手を打っていかねばいけないというふうに思っております。

まずは何番目かに質問をいただきました東員第一中学校の問題ですけれども、アンケート調査の中で、町民の皆様の多くが、やっぱり真ん中へ持ってくるべきだろうというお話をいただいております。

そういうことで、あの計画断念からすぐに県当局との話し合いを進めております。県の見解も聞きながら、協議をしながら進めておりますが、今の状況からいくと、恐らく年度内、3月までには何らかの報告ができる方向にしているのではないかなというふうに思っております。

これからこの地域をどうしていくか、東員第一中学校の移転も含めてどうしていくかということ、今考えておまして、それもこれから我々がやっていかねばいけない、そして断念せざるを得なくなった、今、我々が責任を持って、この地域にもう一手、何か打っていくということは我々の責任だというふうに思っています。

そういう意味で、そこへ行こうという決意も含めて、そのけじめとして、今回給料の減額という措置をとらせていただくというふうに思っております。副町長と私の責任というのは、私の方は当然重いというふうには思いますが、副町長とご相談申し上げて、私は副町長に責任をとっていただく必要はないんじゃないかな、私がとればいいんじゃないかなというふうに思ってたんですが、副町長とご相談申し上げて、一緒に私も責任と言うか、減額をさせていただくということになりましたので、そういう経緯で私と副町長が減額という措置をとらせていただきました。

観光事業につきましては、観光協会、現在も休眠状態であります。ただ、なぜ休眠状態なのかと言うと、観光協会の総会が開けないという状況にあったというふうに聞いております。これは行政ではないので、我々担当者からその話を聞いておまして、何とか観光協会の立て直しということで、もう一回、総会を開いて、きちっとけじめをつけるように担当に話をさせていただきましたけれども、その報告によると、観光協会での総会すら開けない状況にあるということで、それを何か月かやってきましたけども、断念せざるを得ない。新しい観光振興会という、若い人が中心となって、別の組織を立ち上げていただきました。

そして、この観光振興会がいろいろなイベントを開催するとともに、行政から今まで観光協会には、いろんな事業をするときに補助金を出しておりましたけども、今の観光協会には正直一銭も出しておりません。自主運営をするということで、やっておりますので、その申請も上がってきませんので、全て自主運営で、そして町の観光、そして情報発信をしていただいているという状況ですので、その経緯を見守っていきたいというふうに思っております。

農福連携のシグマファームについてでございますけれども、確かに一民間事業者であるということは承知をしておりますが、これについては農福連携ということで、公式には三重県第一号だというふうに認識しておりますけれども、その時に、知事も立会人としてお越しいただい

て協定を結んでおります。その時に事務所機能、そして拠点が長深の畑の中にはなかったということもあり、とりあえず町の施設が空いていた、稼働していなかったということもあって、そこを使っていた。もちろん賃料はいただいておりますが、そういう経緯でシグマファームに使っていただいているという現状がございます。

サイレン吹鳴につきましては、今までも何度も話をさせていただいてますが、サイレンを鳴らさなければならない、その時になれば、もう消防署が消火活動に入ってます、その時間には。消防署に通告がいくと、一斉に消防団の皆さんにメールが流れます。そして消防団の招集ということになるんですが、その時にはもう消防署は出動して、ほぼ放水、そして消火活動に入っております。ですからサイレンをメールに変えたというのは、迅速に消防団に知らせるためということもございまして、そうなればサイレンを鳴らすということにつきましては、町民の皆さんから賛成・反対両方の意見がありました。これは鳴らしている時からありました。

当時、当直がありまして、サイレンを鳴らさなければいけないということについては、職員の負担がすごくあったというふうに、職員と話し合いをして聞いております。その職員の負担を軽減をさせていく、それによって支障が出るかと言うと、消火活動に何の支障も出ないというふうに判断をさせていただきましたので、吹鳴をやめました。

また、この庁舎管理の体制が変わりました。前は職員が休日、夜、寝泊まりをしてました。しかし警備会社に委託することになりまして、やっぱりやめてよかったのかなと、連絡体制とかいろいろありますので、よかったのかなというふうに思っております。

それから東員第一中学校については、今、お話をさせていただきました。

部制廃止につきましては、詳細、副町長からご答弁申し上げるかもわかりませんが、私からは、これは政策案件ではないというふうに思っております。ですから町長選挙があろうがなかろうが、交代しようがしまいが、組織の中でどうしてもしなければいけない状況になっているというふうにご理解をいただきたいというふうに思います。

それから北勢線については、一緒に活動をさせていただいた、私も一人として、今の状況、非常に正直残念な状況になってます。ただ、あの時と違うことが一つだけあります。それは何だと言うと、もう100億円、北勢線につき込んでいますね。あの時は100億円つき込む前でした。ですから100億円つき込んだ北勢線をこれからどうしていかなければいけないかというのは、やっぱりちょっと当時とは違うというふうに思ってます。

ただ、三岐鉄道の自主運営というのが、あの時の本来の約束、もう今やっていただくという約束でした。ですから三岐鉄道には自主運営できるような、なかなか難しいと思いますけど、今いろいろ見ていると。ただ、三岐鉄道には自主運営するんだという意気込みを持って、もっとも自分で努力をしていただかなければいけないというふうに思いますし、私は三岐鉄道には再三、その話はさせていただいております。

例えばもう通勤・通学というのは増えることはない、これ以上増えることはないというふうに思います。そうすると、じゃあこの赤字をどう解消していくかと言うと、通勤通学以外の人を増やす以外にないんです。そうすると買い物とか医者へ行くとか、そういう人は一気には増

えません。ならば観光客を呼び込む以外に私はないというふうに思います。その一旦馬力の投資に対しては我々も考えるから、三岐さん、もっと積極的に考えてくれという提案もさせていただいておりますが、なかなかそこまで応じていただけていないというのが状況です。これは三岐鉄道に対して、もっともっと我々は言っていかなければいけないというふうに思いますし、我々も何とか乗客を増やすための知恵を出していかなければいけないのかなというふうに思っております。

それから街路樹の件ですけれども、なぜ今までほっといたんだということなんですが、国の補助金を使って街路樹伐採、そして歩道の整備というのを今やっております。やっぱり単独では、なかなか町の持ち出しだけでは難しいというところがあって、補助金獲得、そしてこの事業をやっていくということを考えて、今に至って実行をしているということでございます。特に街路樹につきましては、確かに正直、賛否両論はあります。ただ、街路樹を切って整備した歩道について、ああよかったねという声をたくさんの方からいただいておりますので、これは進めていきたいというふうに思っております。

それからこれが最後だと思うんですけど、水道についてですけれども、水道事業につきましては、今、国で民間委託という話があります。ただ、これについては非常にこの経緯、見守ってまわすけど、問題が多過ぎるんじゃないかなというふうに思います。本当に民間委託することで、水の安全性、我々が飲む水ですから、本当に安全性が守られるのかというのが、非常に払拭し難い問題として残っております。

幸い、本町につきましては、あまり費用のかからない水というのがあります。東員町の下は大きな水がめのようになっていると聞いてます。これは三重大学の水の調査をいただいた教授からも聞いておりますし、非常に良質な水質の水が得られているという状況にある中で、我々の手で安価に町民の皆さんにお届けできるなら、これにこしたことはないんじゃないかなというふうなことを思っております。国ではそういう動きがありますけれども、本町においては、そんなに考えていくべきものではないというふうに思っております。

最後に、聞かれておりませんが、私は8年間、紆余曲折いろいろありましたけれども、東員町の政策ということで、いろいろ手を打ってきております。ただ、今まで私がまいてきた種を、少し育ってはいるものの、自分で刈り取るまでにはいってないというふうに思っておりますので、もう一度、来春、挑戦をさせていただいて、何とかもう4年間、この町政運営を担わせていただきたいというふうに考えておりますので、どうかご理解を賜りますよう、よろしくお願いを申し上げます。

○議長（島田 正彦君） 三宅議員。

○12番（三宅 耕三君） いろいろとお答えをいただきました。少し論点がズレているような気がしますので。

今、最後に町長が述べられたことは、言い足りなかったことはないですか。しっかりと来期に向けての抱負をもしもお持ちでしたら、後ほど述べていただければと思います。

今、私が質問してお答えをいただいた部分で、前後はもちろんしますが、農福連携、い

ろいろ説明をいただきました。これは農福連携を否定しているわけでも何でもありませんよ。その説明は十分受けております。

ただ、役場庁舎の目の前にあるあの建物に民間事業者の名前を入れて、これがいいのかということを行っているだけです。もしも耕作放棄地に活動拠点があれば、そちらに移したらいいじゃないですか。もしもあそこに入れるのであれば、農業イノベーションとか言えば、あれ何ですかということ、そういういい意味の連絡はあるでしょうけども、民間事業者の名前を入れたんだったら、広告料を取らなきゃいけないでしょう、というぐらいになってきますので、やっぱり公共物にただ名前を入れていて、事務所を貸しているだけというようなことで、あそこにはふさわしくないと。お考えを伺いたいと思います。

それから面倒くさいから全部いきます。いろいろ責任の重さについても伺いました。自らの報酬を削られたということには評価をします。ただ、先ほど町長と副町長が同じ責任の重さかなというのを申し上げたのは、町長も10%、副町長も10%、せめて町長だったら20%といきませんか。まだ最終日がありますので、間に合います。そうすれば町長の評価も上がると思いますよ。これもお答えいただきたいと思います。

それからサイレン吹鳴には賛否両論があったというふうにお答えをいただきましたけども、なぜ賛否の否の分だけを受け入れられたのか。いろいろと職員の負担というのもしきました。子どもが泣くからサイレンはやめてくれとかいう声もあったとか。

これ建物の火災という場合は、財産を失うかもわからない、生命を失うかもわからない、ご近所にも迷惑をかけるかもわからないという一大事なんです。いろいろな都合だけを前面に出してやめてしまって、メールに変えた。いち早く消防署が動くのは当たり前ですし、説明も十分聞いてます。これをやっぱり消防団員からも同僚議員からも町民からも、なぜサイレン吹鳴はやめたのかということを知りたいですね。なぜ賛成の部分の声を聞けなかったのか。担当課も困っております。町長がもうやらないと言った以上はできませんということなんです。だから町長の発言は重いです。お考えを今一度、伺いたいと思います。

それから部制廃止ということで質問をしました。町長選挙に関係なく、行政は進んでいるということで、これは理解もできますけども、我々にはない、議員にはない執行権、人事権というのを町長は持っているわけですね。ここで大きく発動しているわけですから、これはやっぱり選挙前に大きく庁舎内を動かしてしまうんじゃないかと、正しいやり方は、町長の選挙の後がよかったんじゃないかなと思います。

けども一方では、行政は停滞することなく、町長の選挙があろうとなかろうと進んでいるということは、その部分では理解をいたしましたので、私たちも認める形になっておりますが、町長の考えはちょっと違うと言ったのは、そういう部分です。大きな人事権というのを発動するのに、自分が選挙間際でやることかと言いたかったです。

いろいろ言いましたけども、ご答弁をいただきたいと思います。

もう一つ、観光協会、これも今まで聞いたことを、ずっとまた述べられましたけども、観光協会があって、そして今、休眠状態になって、そして観光振興会が立ち上がって、今、頑張っ



てやっただけでいる。観光振興会を否定しているわけでも何でも無い。観光振興会は観光振興会で頑張っていたきたい。

今、北勢線の時に言われましたけども、他から人を呼ぶのに、いろいろな東員町の魅力をアピールしたり、事業を行ったりする、そういう部分は振興会は担えない。観光協会と観光振興会が連携すれば、もっといいまちづくりができるんじゃないのかと私は思います。ですから今度、観光協会の復活に、またちょっと力を注ぎたいと思いますので、町長、協力していただけますか。

大事なものは、町長の発言は重いというのは、あの会長は、おれ気に入らんからやめておいてくれとか、そういう個人的な発言は絶対しないでいただきたい。やはりもっともっと町民やいろいろな人の意見を尊重して、多くの人からの意見を取り入れるというふうに町長、なってください。よろしくお願いします。

ご答弁をいただきたいと思います。

○議長（島田 正彦君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） 順次、お答えを申し上げます。

まずシグマファームの件ですけども、今、長深地内に自らの拠点を作る計画が出てきました。そこへ移っていただいて、きちっとしていただく方がいいんじゃないかということで、今、話し合いを進めております。たまたまあの時は水耕棟も空いておりましたので、事務所とともに水耕棟も使ったらという話をさせていただいて、あのようになったというふうに思っておりますので、拠点を長深の方へ移すという方向で話し合いを進めております。

報酬削減につきましては、私は先ほども言いましたように、私だけでいいんじゃないかというふうに思って、私だけの報酬減を提案しようとしたところ、変な言い方ですけども、自分もつき合うわ、みたいなことで副町長に言っていただきました。それは慰留はさせていただいたんですけども、私も同等だというふうにおっしゃっていただいて、それではということになりましたので、本来なら私だけだというふうに思って提案をさせていただこうかなと思っておりましたので、後でそういうことになって、こういうことになったということでございます。

サイレンにつきましては、メールに変えたのは、我々行政ではなくて消防署だというふうに思っているんですが、もし違ったら答弁してください。私の認識では、行政がメールに変えたのではなくて、消防署と消防団との話し合いの中でメールが変わっていったというふうに思っております。

そして、なぜ賛否両論ある、やめろという方だけをとったのかということですけども、それは先ほども言いましたように、サイレンを鳴らしている時には、もう消火活動が始まっているということで、安全・安心については、消火活動というものについては、サイレンを鳴らす鳴らさないは何の支障もないという判断をしました。

そういうことで、職員の負担も含めて、いろんなことを勘案して、やめようと。住民の皆さんの声も聞いて、そして先ほども言いましたように賛否両論ある。じゃあ住民の皆さんがサイレンで知って消火活動に参加できるのかと。それはもうできません。消火は消防団でもできませ

ん。消火活動は消防署がやります。そういうことでサイレンを鳴らすことをやめることについて、何の支障もないという判断をさせていただいたということでございます。

観光協会のことですが、好き嫌いで決めているわけでもないし、私は報告を聞いているだけでございますけれども、観光協会の総会すら開けない状況で、前へ進んでいかない。我々の思いは、観光協会をもっともっと内部改革していただいて、もっともっと町と一緒にやっていく組織になってほしいという話をさせていただいて、総会を開いていただいて前へ進めようとしていただいたんですが、総会すら開けなかったということがありますので、やむを得ずこういうことになったというふうに思っております。

○議長（島田 正彦君） 三宅議員。

○12番（三宅 耕三君） 時間がありませんので、細かいことを言い出したらキリがないんですが、一つ、来期に向けての抱負はもういいですか。そしたら手短かに。

その前に、最後で終わりたいと思いますけども、別にサイレン吹鳴は、町民に消火活動を手伝ってもらおうとか、そんなことを言っているわけじゃないんですよ。そういう周知をするということで、「あっ、火事があったから私たちも気をつけよう」という抑止に繋がるということもあるんですね。今、一方的な方からばかり町長言われているけども、何も火事の現場に駆けつけるためにじゃないですよ。

観光協会でも、その経緯はわかってます。私がお手伝いしますから町長も協力いただけますかということをお話をただけです。

後はもう町長の抱負を述べてください。

○議長（島田 正彦君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） 観光協会につきましては、また相談させていただきたいというふうに思っております。

抱負をということでございますが、経緯をお話をしますと、私、30代の後半に政治の世界へ飛び込みました。それからいろんな先輩方に教をいただいたり、そしてたくさんの仲間と色々な取り組み、勉強もし、研さんを積んできたというふうに思っています。三宅議員は、私の大切な仲間の一人だというふうに思っております。

今、日本だけではなくて、世界中が大きく変わろうとしております。その日本でも人口の減少期に入って、高度成長じゃなくて成熟社会という中で、今、どうも世界中が過渡期に来てるんじゃないかなというふうに思っております。そのグローバルに変わっていく中で、こうした東員町のような小さなまちが、そのゆがみの中で、東員町だけではなく、日本全国、みんな苦しんでいると。私は町村会で、いろんな町長さん方と話をさせていただきますけども、どこでもみんな苦しんでいるんですね、この過渡期の中で。

そうした中で東員町も当然例外ではなくて、人口減少は、まだ顕著なものにはなっていないものの、傾向は出てきておりますし、町民税の減収も少しずつ聞いてきているという状況の中で、やっぱり東員町が東員町の身の丈に合った独自の収入を得るといって、こういう手を打っていかないと、東員町というのは、この先がないんじゃないかという危惧を私はしております。

そのための方法として、まず第一には農業というものを考えました。東員町の面積の3分の1が農地です。この農地を活かさない手はない。そして大豆に着目しておりますが、私はこの大豆でオンリーワン、日本中で東員町がオンリーワンというものを目指していきたいと思ひますし、そのオンリーワンが、近々達成できるのではないかという期待を持っております。

それから先ほど三宅議員も申されておりました駅前開発、残念ながら断念せざるを得なくなりましたが、この可能性というのはすごくあると、魅力もあるというふうに思っておりますので、ここにもう一手打っていくということを、これからやっていかなければいけないという時期だと思っております。

こういうことで先ほども申し上げましたように、私がまいてきた種が少し育ったものもありますが、刈り取るまでにはいっていないというふうに判断をさせていただきましたので、何とかもう一度、来春、挑戦をさせていただいて、あとの4年間を町政運営に携わらせていただきたいという思ひでおりますので、議員各位並びに町民の皆様のご理解をよろしくお願ひを申し上げます。

ありがとうございました。

○議長（島田 正彦君） 三宅議員。

○12番（三宅 耕三君） 時間がまいりましたので終わりますが、これからじっくりと、町長をはじめ町の幹部諸兄と語り合っ、まちづくりというものに対しての話をしていけたらなと思ひます。そして町長の来期に期待をして、一般質問を終わりたいと思ひます。